

「南高で得たもの」

平成22年3月

普通科卒

宮武 麻理



のある短期大学に入学することになりました。そして現在、夢だった保育士になって4年目に入りました。子どもが好きだというだけではなかなか務まらない職業だということを痛感しながらも、やっぱり子どもはかわいくて大好きだから続けていけるんだと思います。大変なことももちろんありますが、子どもたちと一緒に成長していきながらこれからも頑張っていこうと思います。

現在私が勤めている保育園にも、南高の生徒が実習に来ています。南

高の懐かしい体操服を見ると、

高校生活のことが思い浮かんできます。女子だらけのクラスにはじめは

不安でしたが、逆にそれがクラスの団結力を高めていたのではないかと思います。3年間の中で何でも話せるかけがえのない友だちもできました。そして、担任の先生にも恵まれて、今までに会ったことのない先生

で、おかげで毎日楽しく高校生活を送ることができました。良き友だち、先生に会えることができて、本当に南高で良かったと思っています。

私は平成22年度に普通科を卒業し、現在は愛媛県で今治タオルの関連会社に勤めながら、二〇一七年の愛媛国体に向けて愛媛県の「今治オレン

ジブロッサム」というバスケットボールチームに所属しています。

高校3年間の思い出は、とにかく毎日がバスケットボール漬けでした。そんな「毎日がバスケットボール生活」の3年間、その時は苦しかったけど、今となっては私の財産です。

バスケットボールは現在の高松南高校女子バスケットボール部の監督から声を掛けていただいたことが始まりでした。高校から新しい競技に挑戦することは、自分がどれだけ成長することができるか未知の世界で、楽しみな気持ちの反面、全く成長できないかもしれないという不安な気持ちもありました。しかし、監督の熱心な指導や、チームメイトが支えてくれたおかげで高校3年間辞めることなく、最後までやりきることが

できました。また、今までは経験したことのない、チームのキャプテンをさせていただいたり、U-18カテゴリで海外遠征に行かせてもらったり、高校最後の全国大会での県予選では、それまで県予選の決勝で勝ったことのないチームに勝利し、初優勝し、全国大会を経験するなど、たくさんの貴重な経験をさせてもらいました。

卒業後は関東一部リーグの筑波大学に入学し、関東一部リーグというレベルは私にとって始めは少し厳しい環境でしたが、高校3年間の経験が自分の中で自信となっていたため、周りのレベルに圧倒されながらも、そんなチームで自分が貢献できることは何か、と考えるようになるなど、高校とはまた違ったバスケットボールを学ぶことができました。

毎日のように体育館に来て指導してくれる監督がいて、一緒に頑張る仲間がいて、どんな時でも応援してくれる家族がいる。

「周りの方に感謝する」という気持ちは高校の時には気付くことができませんでしたが、高校での部活動の経験、熱心な監督のもとでバスケットボールを学ぶことができたから、今はすごく大切なことだと思えるようになった。

うになりました。自分を成長させてくれた高松南高校に感謝しています。

「福祉科での学び」

平成25年3月

福祉科卒

神谷 吏薫



私は福祉科の一期生として卒業し、現在は保育園で保育士として働いています。福祉科では、福祉に関する多くのことを学びました。

私は人に携わる仕事がしたいと思い南高の福祉科に入学しました。人と関わる際に大切なことを授業や実習を通して学びました。

専門教科の授業では、相手の気持ちを受けとめ共感することや利用者

が望んでいる生活を実現できるように面から理解し援助していかねばならないことなどを多く学びました。その学んだことを実践していく実習では、利用者とコミュニケーションを図ることすら難しく本当に私は人と関わる仕事ができるのだろうかと思ふことが何回もありました。そんな時先生から多くのアドバイスをもらい実習を頑張ることができました。そして実習の経験が増えるたびに人と関わるのが好きだと気が付きました。そして高校卒業後、保育の勉強をし、保育士となりました。

高校で福祉を学ぶことができ、その学んだことを活かしながら毎日元気と笑顔いっぱい子どもたちと関わるように頑張っていきたいです。

高校で福祉を学ぶことができ、その学んだことを活かしながら毎日元気と笑顔いっぱい子どもたちと関わるように頑張っていきたいです。

